

中岡慎太郎「中岡慎太郎筆跡」(『亡友帖』より) 慶応3(1)

867) 年正月

丁卯春随

五公卿在筑紫

公卿閉門更厚

加勤慎予等亦

倣公之為日夜

感慨悲哀之情

不能止偶賦一

詩

誤来書劍

百年身幾遇

他郷曆日新

風雨喚醒

京国夢満窓

山色未成春

未定稿

読み下し

丁卯(慶応三年)春、五公卿に随ひて、筑紫に在り。

公卿門を閉して更に厚く勤慎を加ふ。予等も亦、公之為すに倣ひ、

日夜感慨悲哀之情止む能はず。あた偶たまたま一詩を賦す。

誤り来る書劍百年の身 いくたび幾か他郷曆日の新なるに遇ふ

風雨喚醒よびさますす京国の夢
満窓の山色未だ春を成さず

未定稿